

武蔵小金井の駅前に 100m のタワーマンション？ 市民参加の“まちづくり”はどこにある？

今、問題となっている武蔵小金井駅南口第2地区再開発。どんな計画か知らない市民があまりにも多すぎます。4月に一度だけ市の説明会が開かれましたが、再度の開催は拒否され、陳情も否決。

さらに、議員から「8月の都市計画決定に拘泥せず、市財政や他の優先すべき施策への影響の検証などを行うとともに、全市民への説明責任を全うする意味で、十分な市民説明会を開催することを求める」という内容の決議を提案しましたが、否決。

（採決では賛成11、反対12の1票差。陳情と決議に反対したのは、自民党・公明党・改革連合・民主党の4会派）。

7/31には都市計画案に関する市議会全員協議会が、8月には都市計画審議会が開かれ、了承されると計画はどんどん進行してしまいます。

そもそも大規模開発は環境影響もエネルギー消費も大きく、震災復興に人手も資材も不足している現在、積極的に取り組むべきものではありません。

多くの市民が情報を共有し参加できる“市民のまちづくり”を進めたいものです。

（片山かおる 小金井市議会議員）



小金井市民交流センター側からみたイメージ図

事業主体は、地権者（区域内の土地所有者・建物所有者）らでつくる組合による「組合施行」

※権利者60人のうち55人が準備組合に加入

総事業費 384億円

うち補助金は60億円（国から30億円、東京都と小金井市からそれぞれ15億円）

武蔵小金井駅南口第2地区市街地再開発計画の概要は・・・



電波障害：街区の西側にかなり影響が？

交通渋滞

はたして公共性はあるのか

湧水・地下水は・・・

ビル風：街区に接する道路沿いの風が強くなりそう

再開発の影響は？リスクは？

財政・資金計画は？

周辺の住環境への悪影響

日影：冬至の頃は北のかなり広い範囲に影響が？

景観を壊す

この計画は「小金井市まちづくり条例」の第3条で定める小金井のまちづくりの基本方向と真逆では？

歴史と文化の息づくまちづくり 美しい景観と街並みを楽しめるまちづくり 水とみどり、生きものが共に暮らせるまちづくり 環境負荷の少ないまちづくり 誰もが安心・安全にくらせるまちづくり 福祉に配慮したまちづくり にぎわいのあるまちづくり

再開発計画、税金投入の賛否を問う住民投票の実施を求める直接請求署名運動が始まっています。

署名をお願いします

なにしろ急に顕在化した問題なので、現計画に危惧を抱いている人は多いものの、ではどうしたいか、どうすべきかについての議論はまだまだこれからという今、とりあえず計画のストップだけでも求めておく必要があることは間違いありません。

ただ、行政に対するこうした活動と並行して、権利者の準備組合との直接対話をすぐにも始めるべきではないでしょうか。計画案については彼らに主導権があるのだから。望むのは、緑が美しく低層で、財政的にもコンパクトな街区。どうせやるなら環境循環型のモデル地区にして、これを小金井の顔としてアピールしてはどうでしょう。環境に配慮した企業が来たいと思う街、市内外の人が買い物しながら憩い、ここから野川沿いなどに足をのばしたらさらに何かありそうと思わせる駅前。

できること、できないこと、あるでしょうが、合意点を探る努力は必要だと思います。

署名収集期間 7/18~8/17
有権者の50分の1以上(約2000人)の署名が集まれば、直接請求は成立し、「住民投票条例」が市議会に提出されることとなります。

2014年8月 都市計画審議会、都市計画決定

2016年度 権利変換計画認可

2017年度 現存する建物の解体・本体工事着手

2019年度 工事完了予定

東小金井北口は いまどうなっている？ ～まちあるきをしてきました



7月2日、「まちあるき」第二弾は7名が参加しました。まず、東小金井駅北口土地区画整理事業について、北口のプレハブ事務所で市から説明を受けました。事業の施行期間は2000年から2020年、総事業費は約140億円。東日本大震災の復興事業や東京五輪の影響で人件費や資材費の高騰が懸念されます。少子高齢社会を見据えた計画になっているのかどうか。住民の合意に、時間と費用のかかる難しい事業です。

中央線高架下を利用した「東小金井事業創造センターKO-TO」は4月に開所したばかり。個室・シェアスペース等が有料で借りられます。「インキュベーター」(孵卵器)と呼ばれる、起業家の卵を支援する米国の公的制度に倣った市の施設です。「地域資源やネットワークを活用して新しいビジネスの拠点にしたい」とスタッフが張り切っていました。

こがねいタウンショップ「黄金や」で昼食後、

いよいよ東京農工大学内にあるNPO法人回帰船保育所へ。1974年の開設以来、「子どもたちの育ちの場をともに見守り喜び合う」関係を大切に保育を実践しています。一時期は移転場所が見つからないなど、存続の危機にありましたが、2011年に木造平屋建てのすてきな園舎を新築し、東京都認証保育所となりました。保育者の熱意に脱帽です。緑の風が廊下を吹き抜けます。子どもたちが寄ってきて、次々にお誕生日を教えてくださいました。みんな生まれてきてうれしいんだね。楽しいひとときでした。

(小林わかば／緑町)



これからのまちづくりの あり方を考える

私は現在54歳ですが、老眼が始まり、これまで読めていた小さい文字が読めなくなってきています。誰でも歳をとるにつれて、加齢に伴う身体機能低下を受け入れ、それと良い付き合いを自然に学んでいくのではないかと思います。

翻って、高齢社会の現状を見ると、東京オリンピックの時期が東京都の人口のピークと予想されており、高齢化の進展に伴い、介護対象人口や認知症対応の必要な住民が大幅に増えることが予想されています。少子化に伴い家族に依存した介護・福祉が一層困難になる中で高齢者などがより一層自立して生活することが求められる社会になろうとしています。近隣ベースで自立・共立的なライフスタイルの実現が必要とされます。

この自立と共立とは、足が衰え買物に出かけ難くなった高齢者でも自立的に生活できるような新しい地域環境、言い換えれば死ぬまで残った自らの能力を活かして社会の中でいきいきと生活できるまちづくりを前提とするものです。



この問題意識から、墨田区の曳舟駅近くで老朽木造空家を防火・耐震化改修し地域の交流スペース「ふじのきさん家」を作り、町内会や地場の建築事業者、NPOや行政とともに地域の寄合い処として運営する取組みにチャレンジしています。「ふじのきさん家」は、介護事業などの補助事業はもらわず、地域の篤志家や寄付、協力者の手弁当で、活動を行っています。地域社会との接点の中で、これからのまちづくりを構想し、その可能性を見出す時代になったのだと思っています。

個人と地域社会との新しい関係づくりこそが、これからのまちづくりの鍵となる。それをどう実現するか、模索を続けているところです。企業の収益事業のように、短期的に成果をあげることはできませんが、地域で10年、20年かけて築いたものから、多様で細やかなコミュニケーションと豊かな文化が生まれてくるのではないかと期待しています。

(土肥英生／前原町)

九州電力川内原発再稼働反対集会に参加して ～鹿児島県議会傍聴記

6月12日から14日まで鹿児島で開催された川内原発再稼働阻止集会に参加しました。

12日は夕方に到着し、すでに閉庁した県庁前で抗議集会して解散でした。

翌13日は朝8時県庁前に集合し、県議会の傍聴券を手に入れるべく行列に並びました。人数制限の関係上、東京勢限定20席の最後の一枚を手に入れ、いざ議場に入ると傍聴席の3分の1以上が「記者席」の張り紙に席を占領され、座る人のないまま議会が始まりました。知事が壇上でさまざまな政策を早口で読み上げ、原発政策は再稼働を前提に、わずか十数秒で終わり。米の作付でも発表しているように思えてなりません。知事が発表した避難計画は、要援護者は原発から10キロ圏内に限定し、国の基準すら守る気がないものでした。

14日の川内原発現地では、九電へ事前に申し込み、承諾も出ていた電力館の見学が突然の臨時休業により阻まれてしまいました。原発の門前には多数の警官と警備員がバリケードで門を封鎖し、真新しい有刺鉄線と監視カメラの奥には空に溶け込むように白とブルーに塗られた原発が見えました。川内原発も美しい山と川と畑の小さな村にありました。 (OA/緑町)

— 追記 —

その後、原子力委員会は九州電力川内原発の安全審査合格を内定し、政治判断を差し置いて再稼働を進める動きとなっている。ところが川内原発から30キロ圏内の始良市市議会では7/16に「川内原発の1、2号機の再稼働に反対し廃炉を求める」意見書を可決した。全国でも多くの地方自治体が国への意見書を可決しているが、小金井市議会では、市民からも要望書が出され、6/20の本会議で「九州電力・川内原子力発電所など原発の再稼働に反対する意見書」を賛成多数で可決、採択された。

編集後記 ちょっと前の都議会「セクハラ野次」。そんな言葉で片付けるべきではない、これは「性差別」という声。そのとおり。野次を飛ばされひるんだ女性議員が一瞬笑った。社会全体が女性に「女はでしゃばるな」という空気。絶対これで終わらせてはいけない。(M. Y)

集団的自衛権行使は認められません！

7月1日安倍政権は、多くの人々の反対を押し切り、憲法解釈を変更し、集団的自衛権行使容認の閣議決定を強行した。こんな大事なことを何で急いで決めるのだろうか？例えば4月に政府は長年の禁輸政策だった武器輸出三原則を撤廃し、輸出を原則容認政策に転換、軍需関連産業強化を行っている。なるほど、「戦争放棄」から「戦争が出来る国」にして軍需産業で儲けようとしている人々がいるのだ。戦地に行き、戦い、血を流すのは、庶民だ。選挙で勝ったことを口実にした現政権のやりたい放題は許せない。政府の暴走を許さないためにも、あきらめしないで、一人一人が声を上げていこう！

(若林苗子/桜町)

「子どもたちに平和な未来を」～落合恵子さんとともに～ おはなしとリレートーク

9/20(土) 19:00 開演 (18:30 開場) ※保育あり

小金井市市民交流センター・大ホール

前売り 800 円 当日 1,000 円 学生 500 円 高校生以下無料

【主催/問合せ・申込み】

子どもたちに平和な未来を 落合恵子 in 小金井実行委員会

FAX 042-301-7243

メール heiwa.koganei@gmail.com

「市民自治こがねい」は
わたしたち市民の力で小金井市を変えたい！
市民の想いや考えを
福祉やまちづくりに生かしたい！
人権が尊重され、自治が息づく
小金井市にしたい！

そんな考えの市民が集まり
片山かおるさんを市議会に送り出し
小金井のさまざまな問題を話し合っています。

どなたでも気軽にご参加ください。

※詳しくはホームページをご覧ください。

<http://www.sijiko.com/>

★会員になってください★

会費 1口=3000円/年(できれば2口以上)

・賛助会費 1口=1万円/年

・ニュースカンパ 1口=1000円/年

・郵便振替 00130-6-352041